



日本音楽教育学会ニュースレター 第71号

目 次

1 学会からのお知らせ

1. ごあいさつ 第22期会長 小川 容子 2
2. 事務局から今期を振り返って 2016-17 事務局長 権藤 敦子 3
3. 学会の活動は会費納入に支えられています 2016-17 会計担当理事 寺田 貴雄 3
4. 日本音楽教育学会創立50周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』原稿公募のお知らせ 4
5. 第49回大会のお知らせと発表募集 4
6. 第15回音楽教育ゼミナール（広尾ゼミナール）のご案内 4

2 委員会からのお知らせ

1. 編集委員会からの報告とお知らせ 5
2. RILMと日本音楽教育学会 5

3 音楽教育の窓

1. 〈連載〉音楽・教育・学校（15）
あのを登って少し右に曲がった先に・・・ 吉澤 実 6
2. ISME 世界大会へのお誘い：カスピ海西岸の国へ行ってみませんか！？ 阪井 恵 7
3. オーストラリア・サマー・スクール：
コダリーの教育法に基づく学校音楽セミナー 尾見 敦子 7

4 会員の声

1. 学校の現場から～複式学級の音楽科指導について 山口 亮介 8
2. 日本音楽教育学会に入会して 岡元 敦司 9
3. 合唱の楽しさを子どもたちへ 浅田龍之介 9
4. 会員の新聞・近刊等紹介 10

5 報告

1. 平成29年度日本音楽教育学会第4回常任理事会 11

6 事務局より

- [編集後記] 15
- [写真シリーズ・唱歌の情景・後日譚] 16

1 学会からのお知らせ

1 ごあいさつ

小川容子（日本音楽教育学会第22期＝2014-17年会長）

2014年4月から、2期、4年間にわたり会長職を務めさせていただきました。ほっと一息つきながら、今、とても穏やかな気持ちで退任の時を迎えております。これもひとえに、学会員の皆さま、各種委員会、理事、常任理事、副会長、事務局長、事務局の皆さま、そして多くの関係者の方々に支えていただいたお陰です。心より感謝申し上げます。

「研究によって生み出される音楽芸術の知の正当性を、科学的に示す」と、「教育・研究に関する学際的な交流を推進し、その成果を社会に還元する」という二つを学会運営の指針として掲げてから、4年間。振り返ってみれば、激動の中を、無我夢中で走り続けたような気がしております。

まず、学習指導要領改訂に向け、教科音楽の存在意義・価値を主張し、社会にその重要性を訴えました。会長諮問プロジェクトを発足し、全国30校、2,500名余の子どもたちを対象とした膨大な質問紙調査を実施すると共に、美術分野の諸学会や芸術関連の諸団体に声をかけ、座談会・協同シンポジウム・鼎談を経て、冊子『伝統文化・創造関連資料集（音楽編その1）～音楽科教育の成果と課題～』を作成いたしました。冊子の中では、会員の皆様がこれまでに発表された、たくさんの成果物を一覧表にさせていただきました。

次に、学会誌の改革にとりかかりました。年次大会では、毎年100件近い口頭発表がなされており、共同企画の件数も増加の一途をたどっております。各地区の例会も大変盛会です。こうした勢いを、何とか掲載論文の充実へ結びつけたいと考え、両学会誌検討委員会を立ち上げて議論を重ねました。その結果、より一層魅力的になった『音楽教育学』と『音楽教育実践ジャーナル』を、お届けできるようになりました。

さらに、アジア地域との学術交流の推進を含め、若手研究者を支援するプログラムにも力を入れました。第13回音楽教育ゼミナール（白金ゼミナール）、第14回音楽教育ゼミナール（目白ゼミナール）、第7回夏季ワークショップ（長唄ワークショップ in 千葉）、第8回夏季ワークショップ（in 野沢温泉）では、和やかで、且つ刺激的な交流がおこなわれました。これらの成果は、年次大会での発表、APSMERやISMEをはじめとするさまざまな国際会議での発表・論文へと結実いたしました。私の任期中に開催された第45回（東京）大会、第46回（宮崎）大会、第47回（横浜）大会、第48回（愛知）大会の開催校、ならびに関係者の皆さまにも、厚く御礼を申し上げます。いずれの年次大会も、とても印象深く、意義深いものでした。あわせて、本学会設立50周年記念出版準備委員会を立ち上げたことも、記しておきます。来年の年次大会では、皆さまの叢智を結集した『音楽教育研究ハンドブック』と『50周年のあゆみ』が、誇らしげに並んでいることでしょう。

最後に、日本音楽教育学会の更なる発展と、学会員の皆さまのご多幸・ご活躍を祈りながら、第23期新会長へたすきを渡します。

4年間、本当に、本当に有難うございました。

2 事務局から今期をふりかえって

権藤 敦子 (2016-17 年度事務局長)

2016・2017 年度にかけて事務局を預らせて頂きました。東京都小金井市の事務局には、基本的に月水木の 9 時から 15 時まで、亀山さん、若尾さん、宇田川さんが交代で勤務してくださっています。1,500 名を超える会員情報の管理と学会業務全般にわたる事務作業は非常に煩雑で、大会前後は力仕事も多く、多様な業務に追われて休む間もない忙しさですが、お互いを気遣いながら、時に明るい笑いや冗談も飛び交う気持ちのよい事務局です。広島にいる私にできることは限られていて、実質的な作業は頼もしいお三方が限られた時間のなかでできばきと片付け、見通しを持って学会業務をサポートしてくださっていることに心から感謝しています。

学会ウェブサイトやオンラインのシステムを活用することで、業務の簡素化を図りつつ確実な情報管理ができるように努めているところですが、最後は人の手での確認が必要です。選挙時の会員情報確認など想像以上の緊張を強いられる業務もあります。日本学術会議協力学術研究団体としては正確な会員データの把握も求められます。今年度は、諸届をホームページに位置づけることで少しでも情報管理と連絡が確実にできるよう工夫をしてみました。ぜひ、変更届のボタンを活用いただき、事務局からの連絡が円滑に行えるようどうぞよろしくお願いいたします。

学会活動を支える事務局になれるよう、日常的な業務に専念するうちに 2 年間に経ってしまいました。大変お世話になりました。今後は、将来への展望をもった業務の見直しも求められることと思います。今後とも、事務局へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

3 学会の活動は会費納入に支えられています

寺田 貴雄 (2016-17 年度会計担当理事)

今年度の決算を行い、来年度の予算を立案する時期になりました。会計は、常に、学会の財務が健全な状態かを管理しています。特にこの時期は、「健康の源である栄養をしっかり摂取できているか」、つまり会費納入がしっかり成されているかに注意を払っています。本学会は、音楽教育学研究の発展に向けて様々な事業を実施していますが、これら諸事業は、健全な財務があるから成立しています。学会の財務状況が健康体であるためには、みなさんの会費納入が不可欠なのです。

会費納入を怠りますと、大会での研究発表や学会誌への投稿が不可能になるなど、会員の権利が大幅に制限されてしまいます。また、2 年間会費が未納の場合は、自然退会として処理されます。納入を忘れていないか十分ご注意くださいとともに、新年度の会費は、4 月中の納入をお願い致します。

現在、会費納入率が比較的高い水準を維持しており、学会の財務は健全な状態です。更に、健全な状態を維持するために、事務局は最大限の努力を続けています。事務局員のみなさんの献身的な努力の結果、業務の効率化をはかり、経費削減に取り組んでいます。学会創立 50 周年をむかえ、新たな事業が展開されます。これらの事業を質の高いものにするために、「栄養をしっかり摂取したい」ところです。会員のみなさんのご理解ご協力をお願い致します。

4 日本音楽教育学会創立 50 周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』 —原稿公募のお知らせ—

加藤 富美子（設立 50 周年記念出版編集委員長）

日本音楽教育学会は 2019 年の学会設立 50 周年を記念し、『音楽教育研究ハンドブック』（音楽之友社・2019 年 8 月刊行・B5 判 250 頁予定）を刊行する運びとなりました。音楽教育実践と研究の一層の発展を願い、これまでの成果を踏まえつつ新しい切り口から音楽教育の「これから」を考えるためのハンドブックとし、学術性を保ちながら読みやすいものであることをめざします。

この出版に向けて、実践研究に関わる複数の項目の原稿を公募することにいたしました。会員のみなさまのご応募をお待ちいたしております。公募内容の詳細ならびに応募方法は学会 HP の「『音楽教育研究ハンドブック』原稿公募」をご参照ください。

・応募締切：2018 年 5 月 31 日 ・原稿提出締切：2018 年 9 月 20 日
応募多数の場合は、編集委員会にて選考させていただきます。

5 第 49 回大会のお知らせと発表募集

日 時：2018 年 10 月 6 日（土）、7 日（日）
場 所：岡山大学（岡山市北区津島中）
発表募集（共同企画・口頭発表・ポスター発表）：5 月 31 日（木）15 時締切
※例年より発表募集の締切が早まっています。ご注意ください。

学会設立 50 年を目前に控えた今年の岡山大会では、「音楽教育学の地平を拓くために」を大会実行委員会テーマに掲げ、分野や領域の垣根をこえて、専門性とは何か、専門に関わる知識・技術、思考の型、態度等をどのように身につければよいのか、音楽教育の専門性をどのように深め、高め、伝えていくのかといった議論をしたいと考えております。

基調講演ならびにシンポジウムのテーマは「専門性を極める・紡ぐ・繋ぐ」としました。お二人の登壇者に講演をしていただき、そのあと、フロアを交えた熱いディスカッションを予定しております。たくさんの皆様のご来場をお待ちしております。（大会実行委員会）

●基調講演とシンポジウム大会実行委員会企画
日時：大会初日（2018 年 10 月 6 日（土）） 於：岡山大学教育学部講義棟 5202
14:45～15:35 講演 1 斎藤昭則（京都大学大学院理学研究科）教授
15:45～16:30 講演 2 大藤剛宏（岡山大学病院臓器移植センター）教授
16:40～17:25 シンポジウム・・・フロアも交えたディスカッション

6 第 15 回音楽教育ゼミナール（広尾ゼミナール）のご案内

坪能 由紀子

2016 年の第 14 回目白ゼミナールに引き続き、国際的に開かれた若手研究者を支援するプログラム、「英語で研究を海外に発信しよう！」を開催します。詳しくはチラシをご覧ください。ISME、APSMER でご活躍の Chi-Keung Victor Fung 南フロリダ大学教授による "Presenting Music Education Research with an International Audience in Mind" と題する講演も予定されています。

世話役：坪能由紀子、今田匡彦、駒 久美子

講 師：松信浩二（香港教育大学、ISME 理事）
日 時：2018 年 8 月 4 日（土）10:00-17:00～5 日（日）10:00-17:00
会 場：聖心女子大学 マリアンホール内グリーンパーラー、ブルーパーラー
参加費：会員（一般）3,000 円、会員（院生・学生）2,000 円
申込〆切：2018 年 7 月 31 日（火）
申込・問い合わせ：ongakukyoiku.hirooseminar@gmail.com

2 委員会からのお知らせ

1 編集委員会からの報告とお知らせ

編集委員長 有本 真紀

今期最終となった第4回編集委員会（2月18日開催）では、『音楽教育学』への投稿原稿13本の採否について審議を行いました。その結果、再査読となっていた2本のうち研究報告1本が採択、論考1本が不採択となりました。また、新規投稿11本については、研究論文4本、研究動向1本が再査読となり、研究論文5本、論考1本が不採択となりました。

この2年間、本委員会は、学会誌のあり方検討委員会答申（2015.5.17）の趣旨を実現していくことを目標として任にあたりました。委員会からの査読依頼、執筆依頼に快く応じていただきました先生方に、改めて感謝申し上げます。投稿数、掲載数ともに増えたのは何よりありがたいことでしたが、まだまだ改善の道半ばで課題を次期委員会に託すこととなります。

さて、投稿をお考えいただく際には、書きたい内容が『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』のいずれに、また、どの原稿種別に適しているかを選択し、それに応じてご執筆ください。ときに内容や記述が各誌の性格や原稿種別と合致していない投稿が見受けられます。

『音楽教育学』投稿規定、『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定、「投稿の手引き」は学会ホームページからご覧いただけます。分量超過や書式の間違いないか、投稿前に必ずご確認ください。

次回の投稿締切は、5月15日（火）必着です。
みなさまからの投稿を心よりお待ちしております。

2 RILM と日本音楽教育学会

文献目録委員会 木間 英子

音楽文献目録委員会（略称 RILM）では、2年前に『音楽文献目録』の Web 検索システムを構築しました。近年の Web 検索サイトの充実した状況に照らして、冊子体の弱点を考えてのことです。ただし、システムを維持していくための経済的基盤が不安定なため、現在公開を見送っています。時代の要請に応じてまた財政面からも、電子版のみの『音楽文献目録』の可能性を探ることが今後の検討課題となりそうです。

ところで、『音楽文献目録』は、日本における音楽研究の成果を実証する記録としての意義も大きいといえます。公刊された文献のみならず、修士論文・博士論文も収録されていますので、研究全体の傾向をつぶさに把握することができます。最新目録（2017年発行）の収録件数は1255件、そのうち音楽教育関連は全体の20%以上を占め、量的にもっとも勢いのある分野となっています。音楽教育研究は、音楽学諸ジャンルとのつながり抜きには成り立ちませんから、音楽研究の全体像と音楽教育研究の量的質的傾向とを同時に俯瞰できる分厚い記録としての目録の意義は小さくありません。また、委員会では、博士論文を中心に RILM Abstracts (RILM 国際版) にデータを送付しており、日本の研究動向を海外に発信する役目も担っています。

今後は、サブカルチャー・ミュージックや音楽療法等、時代の関心や新たな研究領域を反映する文献の収集にも力を入れると同時に、海外の書誌情報—日本関連の文献、日本人研究者の文献を検索できるよう RILM 国際本部との提携も模索中です。

3 音楽教育の窓



〈連載〉音楽・教育・学校 (15)

あの道を登って少し右に曲がった先に・・・

吉澤 実 (リコーダー奏者・東京藝術大学非常勤講師)

1986年、NHK教育テレビ(現Eテレ)学校放送第3学年「ふえはうたう」の番組講師を依頼され、リコーダーのもつ教育的な力は何だろうと自問自答しながら放送台本やテキストを書いた。2年後、「いい音見つけた」の指導書に「リコーダーのもつ教育的な特性」として次のようにまとめた。

①発音が簡単のため、早期のうちに喜びのある音楽体験ができる。②管楽器奏法の基礎である楽器の支え方、呼吸法、タンギング奏法、運指法の基本が短期間に学べる。③「息」で生まれる音は「自分」の「心」の音として伝わるため、歌唱法と共通性があり、音楽表現法を習得しやすい。④音をつくる楽器のため聴音能力や創造力を芽生えさせやすい。⑤ソプラノとアルトリコーダーを学ぶことで、調和を必要とするアンサンブルに展開しやすい。⑥中世、ルネサンス、バロック、現代曲と幅広く豊富なレパートリーがあり、文学、絵画、踊りとも関連があるため、あらゆる年代の人々の知的好奇心や美的要求に応じることができる。⑦古楽、現代音楽、教育のための楽器(生涯学習楽器)の要素をもつ。

ぼくはオルフ研究所を修了し、モーツアルテウム音楽大学リコーダー科を卒業した。オルフ自身の指揮でリコーダーを演奏し、モーツアルテウム管弦楽団のフルート奏者として活動してきた。リコーダーの現代曲も数多く演奏した。廣瀬量平氏に委嘱した「Ode I」の初演を兼ねて東京カテドラルで帰国リサイタルを開いた。暫くして集中講義の依頼があった。講義名は「簡易楽器演習」とあった。呆然として立ちすくんだ。調べると、昭和22年文部省学習指導要領(試案)の作成に携わった諸井三郎、花村大氏らによって芸術楽器としてとらえられていたリコーダーが、いつの間にか簡易楽器に分類されていた。ヘンデルやテレマンは多くのリコーダーソナタを、バッハは21曲のカンタータや2曲のブランデンブルク協奏曲を、ヴィヴァルディは超絶技巧の協奏曲を数多く作曲した。1930年代初頭にドイツで考案されたジャーマン式リコーダーは、ナチスの青少年音楽教育運動では戦意高揚の道具として使われた。ベルリンオリンピックで合奏されたヒトラーの笛が、今日の日本で広く使われていると思うと、パヴロフ著の「茶色の朝」の暗澹たる思いになる。横浜市では既に30年以上前からバロック式ソプラノリコーダーを使用し、小学校5・6年生でアルトリコーダーの導入に適応させている。

教員養成課程で使われる以前の「音楽科教育法」には「リコーダーのタンギングは舌を歌口に触れで行う」とあった。1535年のガナッシの教本から現在まで歌口に舌が触れるタンギングはない。

昨今、ジャーマン式のもつ可能性を唱えたり推奨したり、アルトリコーダーを移調楽器として扱おうとする考えも聞かれるが、どれもドイツで20世紀に行われて失敗した。バッハ以前の時代からアルトリコーダー楽譜は実音記譜であるが、日本の音楽教科書ではアルトリコーダーの音符表記がオクターヴ低く書かれている。残念に思う。

いろいろなことに出会い、驚き、落胆し、祈り、喜び、感謝してきた。東山魁夷氏の描いた「道」のように、あの道を登って少し右に曲がった先には・・・と希望をもって歩き続けている。音楽教育は、子どもに内在する未知なるものを見つけ、引出し、互いに育み合うことだから。一緒に歩くぼくにも未知なるものが潜んでいることを教えてくれるから。音を発することは生命行為そのものだから。

2 ISME 世界大会へのお誘い：カスピ海西岸の国へ行ってみませんか！？

国際交流委員長 阪井 恵

2018年のISME世界大会は7月15～20日、アゼルバイジャンの首都バクーで開催されます。現在のバクーは、油田のおかげで「第二のドバイ」と呼ばれるほど繁栄、治安も良いとのことで今回の開催地となりました。ISMEの理事で、現地調査をされた松信浩二さん（香港教育大学）からの情報でも、安全で食事は美味しく、夏の気温は30度を上回るものの乾燥して過ごしやすいくとのことです。大会HPには着々と情報がアップされ、周到な計画と準備状況が拝察されます。トルコの古典音楽やアラブ音楽のコンサートの情報などもアップされています。アゼルバイジャンはペルシャ、アラブ、トルコ、モンゴル、ロシアなどに支配されてきた歴史があるため、文化的には非常に興味深いと思います。言語はトルコ語に近いアゼルバイジャン語とロシア語が主流で、バクーでは英語もある程度通じるようです。ISMEのHP（特にTips for Travelersの項目）、外務省のアゼルバイジャン情報などを参考に、参加をご検討ください。アゼルバイジャン渡航にはビザ申請が必要ですが、ネット上から電子申請が可能で、1週間もあれば発行されるとのことです。

学校や大学の本務を置いて出るのはむずかしい時期で、渡航費も手軽とは云えない今大会ですが、何にせよ、百聞は一見に如かず！ 好奇心を全開にして一生に一度（多分）のバクーを楽しみ、現地では他国の人々と、そして日本人どうしても、日頃はできにくい活発な研究交流が進めば幸いです。

3 オーストラリア・サマー・スクール：コダーイの教育法に基づく学校音楽セミナー

尾見 敦子（川村学園女子大学）

コダーイの教育法に基づく教育プログラムの中でも最も優れたセミナーの一つに数えられ、オーストラリアで20年以上の歴史をもつSummer School Program（南半球は夏）に、日本から11人（小・中・高の音楽専科教員、保幼小と中高の教員養成に携わる音楽教員、音楽教室主宰）が参加してきました。正規プログラムは1月1日（月）～12（金）まで土日以外の10日間で、大学院の単位互換が認められています。幸運にも今年2018年は元旦が月曜でした。同セミナーの創始者、ジェームズ・カスケリー氏（Dr. James Cuskelly, 国際コダーイ協会会長）の特別な計らいで「第1週のみの、日本人対象で通訳と解説付き」のスペシャルセミナーが実現しました。

授業は朝8時半から夕方5時まで、Musicianship, Choir, Conducting, 《教師自身の音楽性の向上》とPedagogy, Materials/Practicum《教授法の実践研究》からなり、充実の5日間でした。ここでは2名の参加者の感想を紹介します。

- ・音楽をする全ての人に対応した魅力的な時間でした。Keep practice! 帰国してすぐに学んだことをヒントに工夫して楽しみながら授業しているのはすごいこと！
- ・カスケリー先生のMusicianshipの授業は、私たち教員養成の悩みやジレンマに明快に答えるものでした。

この研修の報告会を東京で2月25日（日）に開きます。また、カスケリー先生が初来日され、福岡（4月28日）、大阪（30日）、名古屋（5月3日）、東京（5日）で1日セミナーを行います。みなさまのご参加を心からお待ちいたします。詳しくは日本コダーイ協会のホームページをご覧ください。

kodaly.jp/kodalyseminargw/

4 会員の声

1 学校の現場から～複式学級の音楽科指導について

山口 亮介（長崎大学教育学部附属小学校）

公立小学校に11年、附属小学校に11年勤務し、時代の変化と共に、今後の音楽教育の在り方について考えることが多くなった。

私が勤めだしたころは、県内に音楽の研究校があったり、自主的な音楽科指導のサークルなども開かれたりしており、日頃の音楽指導について振り返ったり、先輩教師から指導を受けたりする機会が多かった。しかしながら、時代の変化と共に、学校の教員に求められる仕事量は増え、国語科や算数科がどの学校でも研究の中心となったことで、音楽科の研究を行っている学校は減少すると共に、若手教員が音楽科指導について学んだり話したりする機会は、以前より少なくなったように感じている。

そのような中でも、音楽教育研究会などの研究大会の担当県や地区になると、各学校の音楽担当の教師が集まり、授業についての研修を多くもつようになる。数年に一度のこのような機会が、それぞれの地域の音楽科指導の充実につながっていることは間違いない事実だと考える。しかしながら、理想としては日常的にそのような音楽科教育の研究が充実し、若手教員が学ぶ場と機会が多くあることが望ましい。



小学校での授業の様子



複式学級（1・2年生）の合奏発表

最近では、複式学級の音楽科教育について課題意識をもつようになった。複式学級とは、同じ学級に異なる学年の児童がいる学級で、多くはへき地や離島などの、学校の児童数が少ない学校で見られる。私自身は、平成22年度に勤務校において、初めて複式学級の担任になったことから、「ずらし」や「わたり」といった複式学級の指導法や、カリキュラムの編成について興味をもつようになった。

本年度の学校基本調査によると、全国の学級数の約1.7%が複式学級であり、全体の総数から見ると大きな問題ではないように感じられる。しかし、離島やへき地を抱える自治体によっては、市や町の半分以上の小学校が複式学級を有する小規模校という地域もある。複式学級の指導経験がある教師が少ないことや、転勤して初めて複式学級の担任になる教員も多いことも、複式学級の指導の難しさの要因にあげられるだろう。

現在、複式教育における音楽科指導についての資料や実践例は少ない。そのような地域の現状を踏まえて、全国の大学附属小学校の中には複式学級を有する学校もある。例えば、複式学級を有する附属小学校が中心となり、複式学級の音楽科指導についての情報を発信し共有できるようにすることが、複式学級の指導に関わる教師にとっての道標になるのではないだろうか。

学校や教師が抱える課題に寄り添った研究がより多く進められることが、私の願いである。

【2】日本音楽教育学会に入会して

岡元 敦司（北海道教育大学岩見沢校）

北海道の国立大学法人 北海道教育大学の5つの分校の中で芸術・スポーツ文化学科のある岩見沢校で非常勤講師として勤めております。岩見沢校は音楽、美術、スポーツ各文化専攻、芸術スポーツビジネス専攻と4つの専攻を置き、芸術とスポーツの文化を様々な視点から学び、地域の文化振興に貢献できる人材を育成しています。

私は文化庁新進芸術家海外研修生（声楽）としてイタリア留学し、アンティーカ・スクオーラ（直訳で古き学校、伝統を重んじる教育）を継承する先生に師事しました。長い歴史を持った声楽メソッド、“心で歌う音楽”から人生において大切なことを学び、また母国・日本の美しさを改めて想いました。帰国後は故郷・北海道に戻り、現在所属する研究室で多くの地域貢献を目指した公演やワークショップ等に携わっています。学生には“古き音楽の伝統”を伝え、共に地域に音楽を生かしてゆくための様々な方法を試行錯誤しながら、芸術という創造性に満ちた表現活動を用いて文化の芽を築けるよう、また教育者として自立できるよう指導しております。

学校外の教育活動として、声楽とイタリア語を中心とした教育の場を立ち上げ、オペラや声楽の公演の企画、出演、または国際文化交流活動、市民オペラや行政が企画する音楽ワークショップなど、音楽に集う参加者と共に地域の文化活性化を目指した実践的な活動にも携わっています。

これからも北海道に根付く文化活動を目指して、声楽と教育に結びつく研究に取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

【3】合唱の楽しさを子どもたちへ

浅田 龍之介（愛知教育大学 院生）

私は合唱を始めてから12年が経ちます。中学校の合唱部で合唱を経験して以来、自分の声でハーモニーを奏でる楽しさや、声がきれいにそろった時の感動をずっともち続けています。そして現在はその楽しさ、感動を子どもたちに伝えていきたいと思い研究を進めています。合唱の良さは音楽が苦手、不得意な子どもでも親しみやすいところにあると思います。そして指導者の言葉かけ一つで、大きく音楽が変わってくるのも魅力の一つです。その言葉かけをどのようにしていくかが大きな課題です。より具体的でわかりやすい指導をするためにはどのような勉強が必要なのか、どのような指導テクニックが必要なのかを日々実践しながら試行錯誤しています。

今回、愛知教育大学での大会開催を機に日本音楽教育学会に入会させていただきました。大会では院生フォーラムに参加し、他大学の学生さんとの交流をしたり先生方にご指導をいただけたりととても嬉しく思っています。また、大会1日目の夜の懇親会でも自分の憧れであった先生方とお話をさせていただく機会があり、とても有意義な時間を過ごすことができました。私は大学院に入るまでは日本音楽教育学会についてほとんど知りませんでした。今回大会を機に入会し、日本中の音楽教育関係者がこのように集まり交流する場に自分も加わっていることに胸が高鳴る思いがします。

これからも日本の音楽教育に少しでも貢献できるように精進していきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

4 会員の新聞・近刊等紹介

★ S. マロック, C. トレヴァーセン編著, 根ヶ山光一, 今川 恭子, 志村洋子, 小川容子, 羽石英里, 丸山慎ほか訳『絆の音楽性 一つながりの基盤を求めて』音楽之友社 2018/4/20 B5判 656頁 [本体 16,000円 + 税] ISBN 978-4276139091 原書 S. Malloch & C. Trevarthen, Eds., *Communicative Musicality: Exploring the basis of human companionship*, Oxford University Press, 2009.

人間の主観性の本質と基盤は音楽性であると提唱した画期的な著作の翻訳。発達心理学, 文化人類学, 言語学, 脳科学, 神経科学, 周産期精神医学, 小児精神保健学, 舞踊学, 時間生物学, そして音楽教育と音楽療法の多様な現場に関わる 27 の学際的論考に, 29 名の多分野にわたる訳者が取り組んだ。我々はなぜ音楽で心を通わせ合うのか, この問いの答えに向かう道標となる一冊。

★ 新しい音楽教育を考える会 (編・出版) 「音楽の授業づくりジャーナル」第1号

音楽の授業づくりに特化した Web ジャーナル。創刊号には音楽の授業報告 6 編, 実践論文 1 編が掲載されている。第 2 号は, 当学会のプロジェクト研究「学校と社会を結ぶ音楽教育」に基づいた実践を中心とする予定。http://icme-music.sakura.ne.jp で閲覧できる。

★ *International Journal of Creativity in Music Education vol.6*, 特集は“Musical Creativity through Breaking the Rules and Traditions”, Institute of Creativity in Music Education Vol.6 から各国の編集委員が参加してタイトルも変更し, 国際化された。特集や投稿論文にも国外からのものが含まれている。出版予定は 4 月。入手希望の方は, tsubonou@fc.jwu.ac.jp (編集長: 坪能由紀子) にご連絡ください。

★ 伝統音楽普及促進事業実行委員会編 (奥忍他) 『DVD 「能は面白い!」囃子編』[本体 DVD 1 枚 + 教材資料 CD-R] 文化庁 2017 年度助成伝統音楽普及促進支援事業 協力: 同志社大学経済学部創造経済研究センター [実費 1,000 円 + 送料で頒布] 「能」を授業で実践できることを目的に能楽師と研究者, 学校教員が協力して作成。学校教員や教員志望の学生を対象にした講座の記録 DVD と, 授業での展開例・開発教材を CD-R で提示。問い合わせ先: denon@gmail.com

今回の「会員の新聞・近刊等紹介」はユニークな内容となりました。本学会の複数の会員が翻訳に関わった研究書, 新しく発行される雑誌, 国際的なジャーナルに関する記事です。

「ニュースレターは会員のホットな情報交換の場」の方針の下, この頁ではみなさまからの投稿をお待ちします。書籍の他, CD, DVD などのリリースもお寄せ下さい。書誌情報, 基本的な音源情報に加えて「である調」90 字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス (半角で) onkyouiku.kouhou@gmail.com

5 報 告

1 平成 29 年度 日本音楽教育学会 第 4 回常任理事会

日時：2018 年 2 月 17 日（土）14:00～17:00

場所：キャンパス・イノベーションセンター（広島大学東京オフィス 408 号会議室）

出席：小川，今川，権藤，今田，奥，加藤（記録），島崎，菅（裕），杉江，寺田，坪能，三村，

引き継ぎ常任理事会（新理事）：佐野，藤井

*開会に先立ち小川会長より 2 期 4 年間にわたる会長職についての挨拶があった。

【会務報告】〈2017 年 10 月 21 日以降〉

2017 年 10 月 21, 22 日	日本音楽教育学会第 48 回大会（愛知教育大学）
11 月 12 日	平成 29 年度第 3 回編集委員会（立教大学）
12 月 27 日	『音楽教育実践ジャーナル』vol. 15, ニュースレター第 70 号発送
2018 年 1 月 21 日	創立 50 周年記念誌編集委員会（キャンパス・イノベーションセンター）
2 月 17 日	平成 29 年度第 4 回常任理事会（キャンパス・イノベーションセンター）

【報告事項】

1. 第 48 回大会（愛知大会）会計報告（國府・疇地→権藤）

以下の会計報告があり，権藤事務局長より，広告・ブースの収入をはじめ大会実行委員会の多大なご尽力のもと，準備金を大幅に上回る返納金があったことについて説明があった。

第 48 回大会決算書

【収入の部】			【支出の部】		
費 目	金額 (円)	備 考	費 目	金額 (円)	備 考
大会本部経費	700,000	大会本部より	施設使用料	266,440	
ブース出展料	200,000	ブース 10 件	講演会謝金	50,000	
広告料	679,676	26 件	アトラクション謝金	20,000	
臨時会員参加費	223,000	4,500×21 名 2,500×49 名 1,000× 6 名	アルバイト謝金	538,650	
			記録関係費用	27,216	
プログラム	3,500		弁当代	91,479	
懇親会参加費	712,000	4,000×125 名（事前） 4,000× 53 名（当日）	実行委員会経費	111,410	交通費・雑費
			懇親会費	437,880	
合計	2,518,176		学会本部への返金	975,101	
			合計	2,518,176	

2. 第 8 回夏季ワークショップ in 野沢温泉会計報告（権藤）

以下の会計報告があった

【収入の部】			【支出の部】		
費 目	金額 (円)	備 考	費 目	金額 (円)	備 考
学会より準備金	350,000		非会員交通費補助	240,000	
参加費	92,000	会員 1,000×59 名 非会員 2,000×8 名 非会員 1,000×17 名	打ち合わせ交通費補助	50,000	
			プレワーク旅費	25,770	
			演奏者謝礼	10,000	非会員
要旨	300	100 円 ×3 部	記録用メディア	12,448	
懇親会	245,000	3,500 円 ×70 名	受付用品	5,806	
弁当	74,750	650 円 ×115 個	通信費	3,582	
臨時バス	19,350	大人 900 円 ×21 名 子供 450 円 ×1 名	懇親会（食事）	180,000	
口座開設準備金	1,000	利息等	懇親会（飲み物）	32,146	

雑収入	3,466		弁当	74,750	650 円 × 115 個
計	785,866		臨時バス	18,800	
			会場使用料	57,350	
			挨拶・手土産等経費	44,280	
			手数料	6,642	
			雑費	1,650	
			口座開設準備金	1,000	
			学会返金	21,642	
			計	785,866	

上記の通り、第 8 回夏季ワークショップの決算を報告致します。

平成 30 年 1 月 11 日

会計担当 長井 覚子



上記の通り、相違ないことを監査致しました。

平成 30 年 1 月 21 日

会計監査 本多 佐保美



3. 平成 29 年度会計中間報告 (島崎・寺田)

平成 29 年度会計中間報告が行われた。学会費の納入が順調に行われたこと、学会誌購入希望者の増加、大会実行委員会からの返金が準備金を大幅に上回ったことにより、繰越金が昨年度を上回る予定である。年度末までに事務局の PC を更新すること、収入の部の費目「大会実行委員会経費返金」を「大会実行委員会返金」に変更することが提案され、承認された。

4. 各委員会等報告

(1) 編集委員会 (杉江)

『音楽教育学』第 47 巻第 2 号は 2018 年 3 月末発行に向けて順調に進捗しており、2017 年 11 月 30 日に延長した投稿締切に向け、『音楽教育学』に 11 本の投稿があった。また、2 月 15 日締切に、『音楽教育学』への投稿が 2 本、『音楽教育実践ジャーナル』への投稿が、特集投稿、自由投稿合わせて 15 本であった。

(2) 広報委員会 (奥)

ニューズレター第 71 号の構成について報告があった。

(3) 音楽文献目録委員会 (木間→権藤)

第 174 回音楽文献目録委員会議事録(2017 年 12 月)に基づき、『音楽文献目録』45 の刊行、編集上の検討事項、助成等の状況とあわせて、音楽教育関係の論文が増加していることの報告を受け、今後、資金確保ができ次第 Web 検索システムの運用をはじめるとの予定であることなどが報告された。RILM 報告をうけて、今後、RILM についての意見を会員から集めることにした。

【審議事項】

1. 平成 30 年度補正予算案にむけて (島崎・寺田)

平成 29 年度決算見込に基づき、平成 30 年度補正予算案に向けて検討を行った。50 周年記念刊行の編集費を 400,000 円から 500,000 円に増額することとし、郵送費の値上げにともなう例会費の通信費の見直しについては、今後検討することとした。

2. 第49回大会について

(1) 大会準備日程（榎藤）

今年度の課題を踏まえ、次年度大会日程に鑑み、共同企画・研究発表申込、発表要旨の締切を5月31日（木）とすること、プロジェクト研究・実行委員会企画・プログラム原稿締切を6月13日（水）とすること等、大会準備日程の大枠について、修正の上承認した。

(2) 大会発表応募要項（榎藤）

大会発表応募要領及び共同企画申込書、要旨テンプレートを確認し、修正の上承認した。研究分野表については、次期大会に向けて今後検討することとした。

(3) 大会参加登録システム（榎藤）

東武トップツアーズからの見積書をふまえ、大会参加登録システムを東武トップツアーズに依頼することを承認した。

(4) 大会実行委員会との覚え書きについて（榎藤）

「大会開催についての学会本部と大会実行委員会との覚え書き」について承認した。

(5) 大会日程等（今田）

大会日程について提案があり、これを承認した。会員の大会参加費を事前申込4,000円、当日申込4,500円、学生会員（事前・当日とも）1,000円とすることを承認した。

(6) 常任理事会企画 プロジェクト研究「学校と社会を結ぶ音楽教育」の進行状況（坪能）

多数の実践の実施を進めていること、協力者に海外の研究者や作曲家を迎えることを計画していることが報告された。

(7) 大会実行委員会企画（小川）

大会実行委員会企画テーマ「音楽教育学の地平を拓くために」、基調講演・シンポジウムテーマ「専門性を極める・紡ぐ・繋ぐ」とすることが提案され、これを承認した。

(8) その他（小川）

常任理事会企画プロジェクト研究は、近年、共同企画件数が大幅に増加していることや、プロジェクト研究のより一層の充実をはかることを踏まえ、来年度はこれまでの2件から1件にすることが提案され、これを承認した。

3. 平成30年度音楽教育ゼミナールについて（坪能）

「第15回音楽教育ゼミナール（広尾ゼミナール）」について以下の提案があり、これを承認した。

テーマ:国際的に開かれた若手研究者を支援するプログラム「英語で研究を海外に発信しよう！」

講師:松信浩二（香港教育大学）

基調講演:Chi-Keung Victor Fung（南フロリダ大学教授）

日時:2018年8月4日～5日

会場:聖心女子大学

4. 第51回大会候補地について（小川）

近畿地区を候補とすることとした。

5. 設立50周年記念『音楽教育研究ハンドブック』について（加藤）

目次構成ならびに執筆者が決まり、原稿公募も学会HPで行っており、2019年8月刊行に向けて順調に準備が進んでいることが報告された。

6. 新入会員及び退会者について（榎藤）

2017年10月20日以降、正会員の新入会員10名について承認した。

個人情報につき削除

7. 事務局より

「会議に伴う交通費支給に関わる当面の申し合わせ」の改訂について案が示され、修正の上承認した。次期理事会に申し送り、理事会及び各委員会の第1回目で確認することとした。

2018.2.17 改正

日本音楽教育学会常任理事会

旅費に関する申し合わせ

学会の用務で旅費が生じた場合には、下記の通り支給する。

- 1 居住地または勤務先のうち用務地に近い方を起点とし、用務地までのもっとも経済的な経路による交通費とする。
- 2 割引切符、バック商品など、可能な範囲でリーズナブルなチケットを利用する。
- 3 起点が都内の場合是一律 1000 円とし、年度末にまとめて振込をする。東京都以外を起点とする場合でも、往復交通費が千円以下の場合と同様とする。
- 4 宿泊費は原則として支給しない。ただし、連日開催により宿泊を伴う場合は、上限 10,000 円を支給する。
- 5 大会など全会員向けの行事の際に開催される会議の交通費は支給しない。
- 6 旅費が生じた際には事務局宛に経路と旅費の総額を連絡する。なお、事務局から領収書の提示を求める場合もある。
- 7 領収書が用務以外の複数経路（連日開催でない場合の宿泊含む）の経費に対するものである場合、領収書金額を超えない範囲で、同一条件での用務に係る交通費分を事務局に申請する。
- 8 会議の主催者はできるだけ早めに日程を決定し、日程が決まったら速やかに会議のメンバーに通知する。事務局から正式な会議の案内をする場合は概ね 1 か月前迄を原則とし、チケット手配時期に配慮する。
- 9 事務局は、用務終了後、速やかに振込または直接支払いをする。

※なお、この申し合わせは 2018 年 4 月 1 日より適用する。

8. その他

- ・次期各種委員への引継ぎについて次期会長から報告があった。

【新旧合同常任理事会】

1. 新旧理事の間で引継ぎを行った。

<今後の会議予定>

平成 30 年度 第 1 回理事会・常任理事会

日時：2018 年 4 月 29 日（日）14 時～常任理事会 16 時～理事会 場所：聖心女子大学

6 事務局より

事務局長 権藤 敦子

- 1) 本学会の会計年度は4月から3月です。学会細則に「第9条 会員は、毎会計年度のはじめに会費を納入しなければならない」とありますように、新しい年度の会費はできるだけ4月中の納入をお願いします。会員の権利として重要な、大会での研究発表や学会誌への投稿の受付の可否、選挙の資格は、会費納入状況を確認したうえで判断しております。また、2年間会費が未納の場合には自動的に退会となります。ご注意ください。
- 2) 新年度を迎え、住所や所属、メールアドレスの変更がある場合には、学会 HP の「変更手続き」のボタンから速やかにお知らせください。なお、「所属地区」については、会員本人の届けがない限り、住所変更をするだけでは変更されませんのでご注意ください。学生会員や特別会員から正会員になる場合には会員としての権利が変更となり、理事会での承認が必要です。変更手続きの前に、事務局にまずはご一報ください。
- 3) 第49回大会で研究発表を希望される方は、同封の応募要領をよく読んでお申込みください。5月31日(木)締切。研究発表(口頭・ポスター)は登録システムから、共同企画は事務局宛のメールで申し込んでください。2018年度会費が納入済であることが必要です。研究発表に関する情報は、随時学会ホームページ上でお知らせしますので、ご確認ください。
- 4) 正会員・特別会員の大会発表および参加の申込サイトは4月中旬にオープンの予定です。ただし、学生会員は当日受付のみとなります。
- 5) 既刊の学会誌販売を行っています。詳しくはホームページをご覧ください。事務局にお問い合わせください。お得なセット販売も継続中です。なお、郵便料金の改訂により、郵送料が少し変わります。申込みの際にお伝えしますのでご理解の程よろしくをお願いします。

【編集後記】

今期広報委員会によるニュースレターはこの71号で最後になります。2期連続で任に当たられた村上康子さんに様々なノウハウを教えてもらいつつ進めてきました。これまでの編集方針を踏まえながらも今期は会員の声を少しでも多く掲載して相互交流の場となるよう、一同力を合わせて工夫してきました。この間に綴じ方を中綴・ホッチキス止に変更して製本費を軽減、その分を増頁に回すことができました。増頁分で少しでもゆとりがあり、読み手のある会報になったでしょうか。学会や会員の活動は日ごとに進んでいきます。それらの活動の息吹をお伝えしたいと願って作業を進めてきました。

来期には、2期目となる高見仁志さんと山中和佳子さん、私に加えて新しい委員にも加わっていただくことになりそうです。増員によってさらなる充実をめざして力を合わせていきたいと考えています。皆様方には学会に対する希望や、驚かれたこと、感じられたことなど、新鮮な視点による投稿をお待ちしています。

投稿先アドレス☞ (半角で) onkyouiku.kouhou@gmail.com

(奥 忍)



【唱歌の情景9】「菜の花畑」

夕暮時の菜の花を詠ったのは蕪村、山村暮鳥は「いちめんのなのはな」を繰り返す。唱歌の菜の花は「おぼろ月夜」に歌われ、日本語翻案「蝶々」で出現する。一面の菜の花を求めて早春のびわ湖畔を訪れた。冠雪の比良山系を背景に広がる一面の黄色が青空の下でまばゆいばかりだった。

……………【写真シリーズ・唱歌の情景・後日譚】……………

このシリーズは、会報の余白に「唱歌」で歌われる花々の姿を掲載してはどうか、と思いついて始めました。素人写真にもかかわらず、楽しみにしてくださった会員もあったようで、感想が届くと幸せな気分になり、NLの編集作業の励みになりました。ありがとうございます。70号の「野菊」で「薄紫の野菊が見つからなかった」と書きましたら、埼玉県の方には大変淡い薄紫の野菊が咲いているよ、と教えて下さった方もいらっしゃいます。来年の晩秋にはぜひ彼の地を訪れてみたいと思います。「北風に向かってたおやかに、しかしリンと咲く野菊」は私にとって一つの理想の姿です。

2年間完結のシリーズを計画していましたが、次期も広報委員の任に当たることになりました。今度は「民謡」に焦点を当てて、それを口実日本中を歩いてみようか、と考えているところです。またおつきあい願えればうれしいです。アマチュア写真愛好家の独り言でした。 (奥 忍)

……………【日本音楽教育学会事務局】……………

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL & FAX：042-381-3562

E-mail：onkyoiku アットマーク remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

郵便振替：00110-6-79672

開局日時：月・水・木 9：00～15：00

事務局員：亀山・若尾・宇田川